

## 北海道支部

### 上川地域における観光産業の現状と観光振興策の方向性について

北海道の観光産業は、地域経済に占めるウエイトが大きく、基幹産業の1つとなっている。そのなかで北海道の中心部に位置する上川地域は、山岳や湖沼、温泉など豊かな自然や観光資源に恵まれ、平成15年度には管内全体の入込み数が18,084.9千人と、北海道全体の12.8%を占めている。最近では、これら豊かな観光資源を活かしたアウトドアスポーツや農業体験など新しい観光スタイルも盛んになっている。

しかし一方で、北海道の観光が「自然一流、施設二流、サービス三流」と形容されるなど、その優位性が発揮できていない現状もある。今後一層の観光振興のためには、地域の独自性を打ち出した製品・サービスなどの地域ブランドづくりやアジアを中心とする観光客誘致のPR活動、さらには他の地域や企業等との効果的な連携など、時代や顧客ニーズに合わせた取り組みを展開することの重要性が増していると考えられる。

本調査事業は、上川地域の市町村、商工会議所、商工会、観光協会等を対象に、現状の観光振興策や取り組みについてアンケートを実施し、その調査結果を踏まえて、今後の観光振興策の方向性を検討した。

なお、各章の構成は次のようになっている。

第1章で、北海道および上川地域の観光の現状をまとめている。

第2章で、アンケート調査の結果を示し、考察をまとめている。

第3章で、上川地域での積極的な取り組みとして、下川町、旭川市、美瑛町、富良野市の取り組みを紹介している。

第4章で、調査結果を踏まえた観光振興策の方向性を検討している。

文献調査やアンケート調査の結果から次の4つの課題を挙げた。1つめは「観光客の入込みの増減や地域格差」である。上川地域全体では、観光客が増加傾向にあるが、同じ上川地域のなかでも観光客の増加傾向にある地域と減少傾向にある地域があり、その格差が広がる方向にある。

2つめは「特産品や文化、ブランドづくりに向けた協力体制」である。観光客が増えている市町村でも、観光客に売る「特産品」がないという話を聞くことがあり、また、アンケート調査でも、魅力的なお土産で観光客が増えたと答えた市町村はなく、「特産品」の自己評価もそれほど高くない。また、地域ブランドづくりにおいては、協力体制や支援体制が十分ではないという意見が多く挙げられた。

3つめは、「外国人観光客への取り組みやホスピタリティの充実」である。北海道全体の外国人観光客が増加するなか、上川地域においても外国人観光客が増加しているが、宿泊者数で見ると、旭川市、富良野市、上川町、美瑛町、占冠村の5市町村に概ね集中している。外国人観光客のさらなる増加には、旅行会社との連携や外国人向けメニューの開発、

通訳や外国語表示などホスピタリティの充実が重要といった意見が多く挙げられました。

4つめは、「観光振興に向けた連携の強化」である。観光振興のために他の市町村や企業などに行っている連携活動は、共同のPR活動が主で、他の活動は少ないようである。遠くからの観光客は、周遊型が多いため、広域的で効果的な連携活動の重要性が今後高まると考えられる。

また、最後の検討項目として、上記の課題に対応し、一層の観光振興を図る方向性として、観光客増加に向けたマーケティング活動の強化と具体策、地域ブランド形成の方法、外国人観光客の増加に向けたホスピタリティの向上策、連携活動の推進のあり方などを、事例を交えながら提示している。